

経営比較分析表（平成30年度決算）

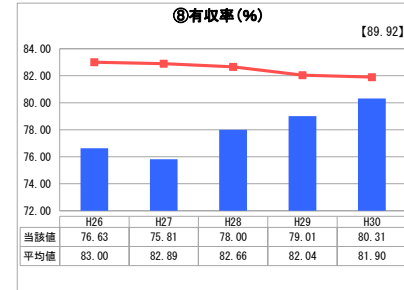
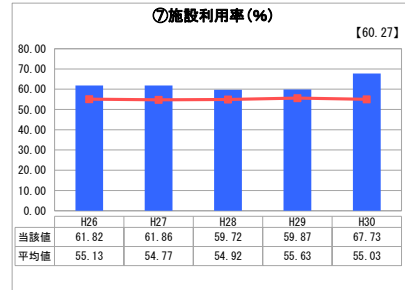
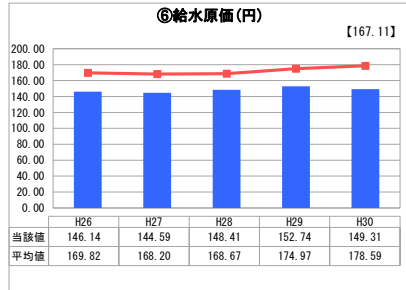
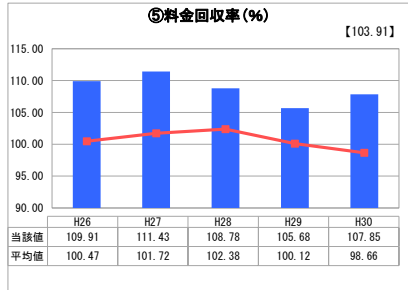
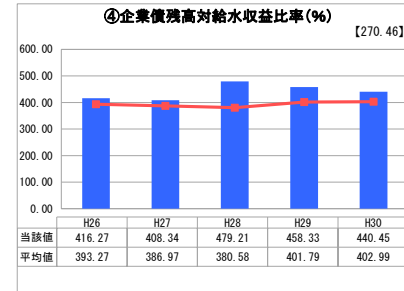
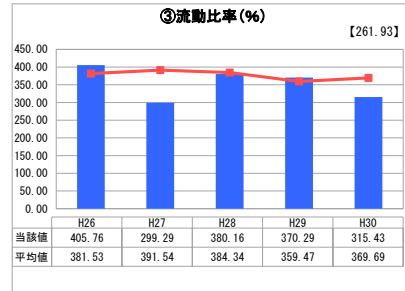
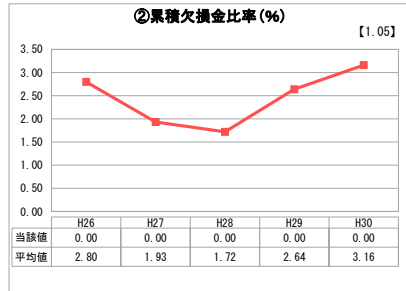
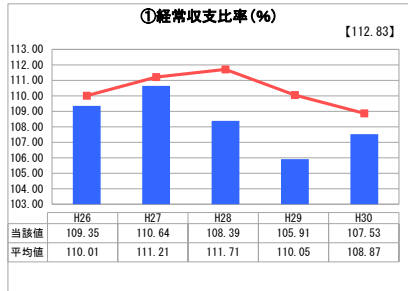
岐阜県 養老町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	61.79	92.88	3,124	

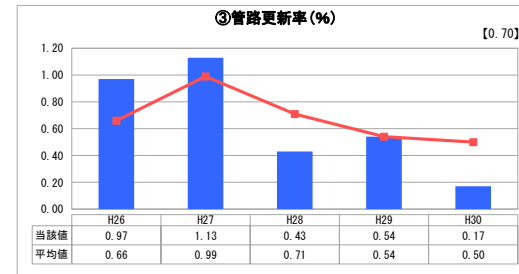
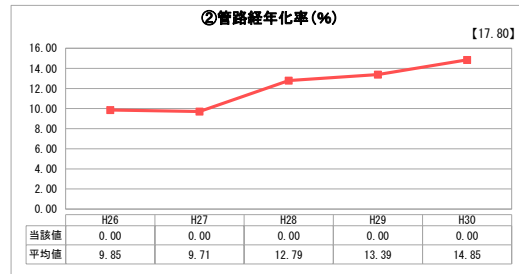
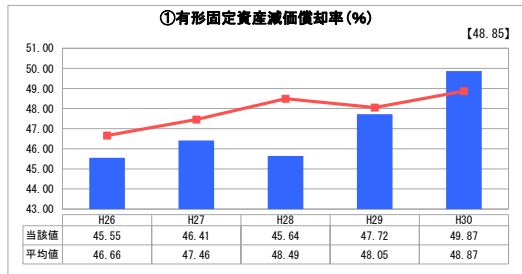
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,121	72.29	402.84
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,865	55.00	488.45

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町は、人口減少及び給水戸数減少の中、料金回収率が100%を上回っており、給水に必要な費用を料金回収で補うことができている。経常収支比率は、類似団体より数値は劣りますが、100%を超えているため黒字経営を行っており、累積欠損金比率も継続して0%を維持しております。

一方、企業債残高対給水収益比率は全国平均及び類似団体平均より上回っております。これは、簡易水道から上水道への統合及び耐震管布設等の工事により企業債借入が増加したためです。今後については、令和元年度より5年にかけて、西部簡易水道区域の上水道統合に伴う工事を行うため企業債の借入を行う予定であるが、必要最小減に留め、計画の進捗に努めていきます。

また、施設利用率については、昨年に引き続き類似団体より高い水準であるため、ポンプ場の統廃合を必要とする段階ではありません。

有収率については、全国平均及び類似団体平均より低い水準ではありますが、平成12年度以降18年ぶりに80%を達成することができました。今後も、漏水の早期発見等を行い有収率改善に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、上昇傾向にあります。管路経年化率は法定耐用年数を超えていないため0%ではありますが、供用開始当初の構築物の更新が迫っており、今後上昇することが予想されます。

管路更新率については、全国平均及び類似団体に比べ低い水準ですが、これは、令和元年度より始まる簡易水道統合という大きな事業があるため、平成30年度は必要最低限の布設替しか行っていないためです。

今後、法定耐用年数を超える管路等を更新するに当たり、老朽管、漏水が疑われる管路等を優先的に更新する必要があります。

全体総括

経常収支は黒字であり、累積欠損金もなく健全な経営といえます。中長期的に見ると人口減少による給水収益の減少、耐用年数を超える施設等の更新費用の増加が予測されます。そのため、さらなる経費削減に努めるとともに、計画的に施設等の更新を行います。

また、平成30年度については「経営の健全性・効率性について」でも述べましたが、有収率が目標としておりました80%を超えることができたため、今後もこの水準を維持し、経営健全化に努めていきます。